

# 翔

No.176

October

2005

## 富山県南砺市医王山でヒメシジミとカラスシジミを採集

細 沼 宏

筆者は、医王山の通称百万石道路にて、ヒメシジミとカラスシジミを採集した。採集場所は富山県であるが、石川県及び隣接する場所での確認例が少ないため、報告する。

ヒメシジミ 2005年7月16日 富山県南砺市医王山医王権現 1♀ 細沼 宏  
カラスシジミ 2005年7月24日 富山県南砺市医王山百万石道路 1♂ 細沼 宏

医王山は、フジミドリが容易に採集できる場所として、広く認知され、時期ともなると、県外からも多数の採集者が訪れている。しかし、7月に入ると採集者は、ほとんどいなくなり、地元の虫屋にとって、ゆっくり採集を楽しむことができる場所となる。今期は、ゼフの母蝶産卵を計画し、7月の雨以外の休日は医王山に出かけ、夕霧峠から医王権現までの間で採集を行った。そんな中で、上記の2種は副産物的に発見することができた。ヒメシジミは、医王権現付近の少し開けた草地を弱々しく飛んでいた。かなり痛んだ個体であったが、付近にヨモギが多く生えていることから、来年が楽しみである。一方、カラスシジミは、夕霧峠と医王権現のほぼ中間付近で、ピーティング中に飛び出し採集したもので、付近では別の個体や食樹となっているオヒョウを確認することはできなかった。

《ほそぬま ひろし 〒920-0276 内灘町緑台2-122》

## 金沢市医王山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集

松 井 正 人

石川県金沢市医王山の蛇尾(だお)山頂上付近には、ブナやミズナラなどが生えているが、風が強いためか樹高は6~7mと低い。ここで、セミの観察中に、ブナの先端付近の葉に止まるヨコヤマヒゲナガカミキリを発見した。

この日は曇っていたためセミが鳴かず、双眼鏡を使ってセミを探していたところ、ブナの最も高い枝の南側の葉に、頭を上にして止まっている本種が見つかった。本種は、ブナ林の虫で、白山周辺の採集例が多く、金沢市以北からは数例しか知られていない。



2005年7月30日 石川県金沢市医王山蛇尾山頂上 1♀ 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 金沢市医王山蛇尾山でコエゾゼミを採集

松井 正 人

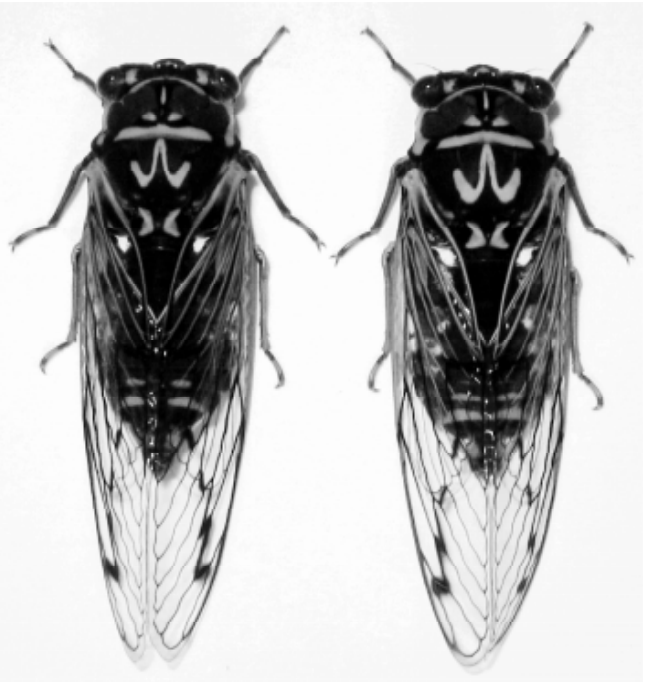
石川県金沢市医王山には、標高300m辺りからエゾゼミの生息が知られている。エゾゼミとコエゾゼミの声は似ていることから、医王山に生息するのは、これまでエゾゼミ1種とされていた。

医王山夕霧峠で、異なる2種のエゾゼミの声を聞き、夕霧峠から白兀山に至る山道で調査したところ、標高900m周辺でコエゾゼミを観察し、2♂を採集した。採集した2♂は、前胸背後縁の黄褐色帯が黒紋で切断されているタイプだったが、目撃した中には、黄褐色帯が黒紋で切断されていないタイプも交じっていた。

2005年7月29日 金沢市医王山蛇尾山（標高900m） 1♂採集 5♂目撃 松井正人  
 2005年7月30日 金沢市医王山蛇尾山（標高900m） 1♂採集 3♂目撃 松井正人



前胸背後縁の黄褐色帯が黒紋で  
切断されず連続するタイプ  
（写真は、佐渡島産）



前胸背後縁の黄褐色帯が黒紋で  
切断されているタイプ  
（写真は、医王山蛇尾山産）

石川県のコエゾゼミは、白山周辺で多く観察され、医王山から最も近い観察地としては、金沢市赤摩木古山から見越山に至る稜線：標高1400m付近（松井、1994）が知られていた。

《 参考文献 》

松井正人(1994)石川県のセミの記録. 翔(107):10.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 医王山の北方稜線はアサギマダラのマーキング適地

松井 正人

標高939mの医王山は、石川県金沢市と富山県南砺市にまたがり、どちら側からも標高840mの夕霧峠まで車で行くことができる。夕霧峠からは、北方に伸びる県境の稜線に車道が整備され、そのほとんどは、富山県南砺市側に位置している。

この車道脇の斜面に、ヨツバヒヨドリが咲き乱れ、7月には多数のアサギマダラが訪花することが、最近分ってきた。

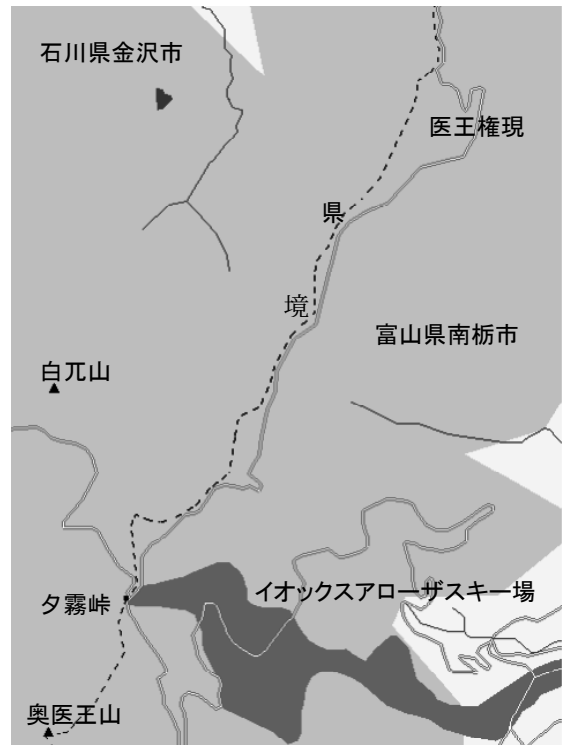
医王山は、金沢市街地から約30分で訪れることができ、古くから好採集地として親しまれてきた場所で、高山蝶を除けば石川県に産する蝶の、ほとんどが観察されている。アサギマダラも毎年観察されているが、一度に多数の個体が観察されたことは、これまでなかった。

ヨツバヒヨドリは、医王山の石川県側車道周辺には、ほとんど生育しないのに対し、夕霧峠から北方に伸びる稜線の車道付近には、医王権現に至るまで、ほぼ連続して生育している。7月の早朝、このヨツバヒヨドリにアサギマダラが群れていると気づいたのは、浅地哲也氏であった。

連絡を受けた2004年は、7月28日から調査を始めたが、車道脇の草刈りが行われた後で、ヨツバヒヨドリは、ほとんど刈り取られ、車道から離れた場所に残されていたヨツバヒヨドリでアサギマダラを観察したが、7月31日には1頭しか観察できなかった。

2005年は、7月16日から調査を始め、観察数が極端に減った7月30日まで調査を行ったが、この間に車道脇の草刈りは行われず、ヨツバヒヨドリを訪れる多数のアサギマダラを観察することができた。

2004年は、調査の開始が遅く、ヨツバヒヨドリも刈り取られていたため、観察数は少なかったが、2005年は、調査の開始を早め、ヨツバヒヨドリも刈り取られなかったことから、多数のアサギマダラが観察でき、7日間で305頭を観察した。観察数が多かったのは、6時台と7時台で、2カ年の合計では、この間に全観察数の約60%の205頭が観察できた。また、曇ったりして直射日光が射さず、気温の上昇が緩やかな日には、8時台や9時台の観察数も多くなった。

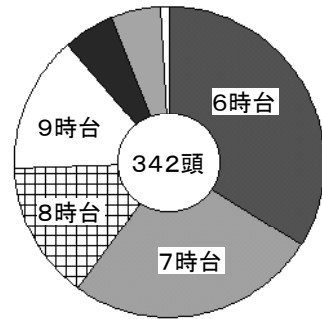


## ■ 2004年の日別時間別観察数

2004年	天気	5時台	6時台	7時台	計
7月28日	晴		15	14	29
7月30日	晴	2	4	1	7
7月31日	晴		1		1
計		2	20	15	37

「空白」は調査をしていない

## ■ 時間別観察数



## ■ 2005年の日別時間別観察数

2005年	天気	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	計
7月16日	曇		16	9	7	13	1		46
7月17日	曇	10	20	19	2				51
7月18日	晴	4	10	3	2				19
7月23日	濃霧	2	3	21	12	17	15	3	73
7月24日	晴		4	2	8				14
7月29日	曇		33	20	19	18	2		92
7月30日	曇		10	0					10
計		16	96	74	50	48	18	3	305

「0」は、調査したことを示し、「空白」は調査をしていない

アサギマダラは、春には南から北へ、秋には北から南へと移動することが知られている。この移動が、いつ頃、どのようなルートで行われているのかを、マーキングと呼ばれる方法で明らかにしようとする調査が、全国で行われている。捕まえたチョウの羽に番号や目印を付けて（マーキングして）放し、再び誰かが捕まえるのを待って、チョウが何処から何処まで移動したのかを調べる方法で、同じチョウを二回以上捕まえる必要がある。そのため、たくさんのチョウにマーキングしなければ成果が上がらず、この調査では、一度にたくさんのチョウにマーキングできる適地が求められている。

石川県内では、マーキング調査に適している場所として、7月の輪島市鉢伏山、8月の白山市釈迦林道、9月の宝達志水町宝達山などが知られている。医王山の北方稜線は、市街地から近く、全て舗装された車道でマーキングでき、時期と時間を合わせれば、たくさんのアサギマダラが集まる事などから、子供連れでも安全な優れたマーキング適地と思われる。

最後に、マーキング適地を見つける手がかりを、ご教示いただいた浅地哲也氏にお礼申し上げます。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## ムモンアカシジミを金沢市国見犀鶴林道で採集

大 脇 淳

ムモンアカシジミは、金沢市では医王山からしか記録されていないが(澤田、1987; 浅地、2003)、本種を医王山から10km程離れた犀川上流域の犀鶴林道沿いで採集したので報告する。

2005年8月8日 石川県金沢市国見犀鶴林道(標高約600m) 1頭採集1頭目撃 大脇淳

犀川上流の犀鶴林道周辺は、採集者こそ少ないようだが(私自身、今までは医王山ばかりで、ここにチョウの採集に来たのは今年の7月が初めてである)、ミズナラやブナなどが生える山塊で、医王山に負けず面白そうな場所である。医王山では、一昨年にはムモンアカシジミ(浅地、2003)、今年にはカラスシジミ(細沼、2005)が採集されていることもあり、この周辺でも、それらのチョウが採れないかと淡い期待を抱いていた。標高600m付近でミズナラの樹冠に、まとわり付くように飛ぶオレンジのシルエットを2つ発見し、急いで車にネットを取りに戻り、採集してみるとムモンアカシジミであった。しばらくして、もう1頭もネットに入れたが、その個体は写真だけ撮影した。8月上旬であるにもかかわらず、これら2個体はかなり破損していた。

当日は、曇ったり晴れたりで、採集場所には昼の12時半に着いたが、ムモンアカシジミは曇った時だけ活動し、晴れるとすぐに活動を止めてしまった。なお、本種が執着するように飛んでいたミズナラの幹には、アリの行列が上下に行き来しているのが観察された。

採集地は、白山に連なる巨大な山塊の一部であり、白山までは標高1000m前後の山々が続いている。同じ山塊で比較的距離の近い獅子吼高原では、過去にムモンアカシジミの記録があり(松田、1985)、本種は、これら標高1000m前後の山々の中に点々と生息しているのかもしれない。

末筆ながら、ムモンアカシジミの過去の文献をご教示頂いた松井正人氏に深く感謝申し上げます。

### 《参考文献》

- 浅地 哲也(2003)金沢市医王山でムモンアカシジミを採集. 翔(164):1.  
細沼 宏(2005)富山県南砺市医王山でヒメシジミとカラスシジミを採集. 翔(176):1.  
松田 俊郎(1985)ムモンアカシジミ・獅子吼高原に産す. 翔(50):15.  
澤田 博(1987)金沢市医王山でムモンアカシジミを採集. 翔(66):2.

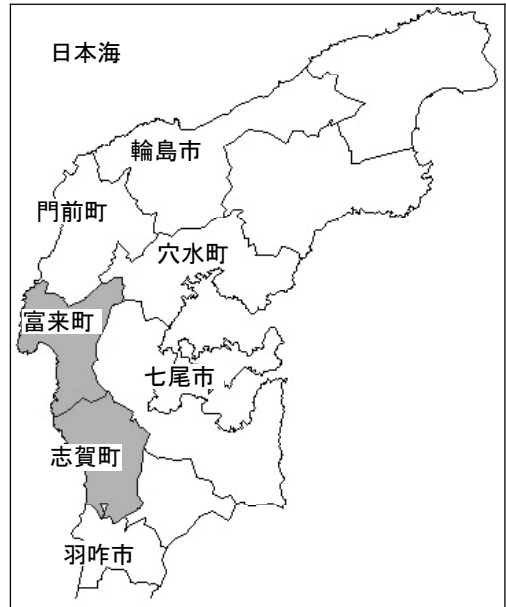
《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》



## 志賀町・富来町の合併に伴う住所表示の変更

螺談会事務局

平成17年9月1日に、羽咋郡の志賀町、同郡の富来町が合併し、新「志賀町(しかまち)」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。



### ■合併後の住所表示

#### 1. 羽咋郡志賀町

旧「志賀町」の住所表示に変更は無いが、「字」の表記をしないことになった。

表示例 羽咋郡 志賀町 字 高浜町 → 羽咋郡 志賀町 高浜町

#### 2. 羽咋郡富来町

「羽咋郡富来町」が「羽咋郡志賀町」に置き換わり、「字」が取れ、富来地区は町名の後に「富来」が付き、西海地区は町名の後に「西海」が付いた。

表示例 羽咋郡 富来町 福浦港 → 羽咋郡 志賀町 福浦港

羽咋郡 富来町 地頭町 → 羽咋郡 志賀町 富来 地頭町

羽咋郡 富来町 風戸 → 羽咋郡 志賀町 西海 風戸

### ■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
羽咋郡 志賀町 字 高浜町	→ 羽咋郡 志賀町 高浜町	たかはまちょう
羽咋郡 志賀町 字 川尻	→ 羽咋郡 志賀町 川尻	かわしり
羽咋郡 志賀町 字 町	→ 羽咋郡 志賀町 町	まち
羽咋郡 志賀町 字 安部屋	→ 羽咋郡 志賀町 安部屋	あぶや
羽咋郡 志賀町 字 上野	→ 羽咋郡 志賀町 上野	うわの
羽咋郡 志賀町 字 大津	→ 羽咋郡 志賀町 大津	おおづ
羽咋郡 志賀町 字 小浦	→ 羽咋郡 志賀町 小浦	おうら
羽咋郡 志賀町 字 百浦	→ 羽咋郡 志賀町 百浦	ももうら
羽咋郡 志賀町 字 赤住	→ 羽咋郡 志賀町 赤住	あかすみ
羽咋郡 志賀町 字 堀松	→ 羽咋郡 志賀町 堀松	ほりまつ
羽咋郡 志賀町 字 梨谷小山	→ 羽咋郡 志賀町 梨谷小山	なしたにこやま
羽咋郡 志賀町 字 北吉田	→ 羽咋郡 志賀町 北吉田	きたよしだ
羽咋郡 志賀町 字 清水今江	→ 羽咋郡 志賀町 清水今江	しみずいまえ
羽咋郡 志賀町 字 末吉	→ 羽咋郡 志賀町 末吉	すえよし

旧 名 称	新 名 称	よみかた
羽咋郡 志賀町 字 神代	→ 羽咋郡 志賀町 神代	かくみ
羽咋郡 志賀町 字 矢蔵谷	→ 羽咋郡 志賀町 矢蔵谷	やぐらだに
羽咋郡 志賀町 字 長田	→ 羽咋郡 志賀町 長田	ながた
羽咋郡 志賀町 字 釈・堂	→ 羽咋郡 志賀町 釈・堂	しゃかどう
羽咋郡 志賀町 字 直海	→ 羽咋郡 志賀町 直海	のうみ
羽咋郡 志賀町 字 松ノ木	→ 羽咋郡 志賀町 松木	まつのき
羽咋郡 志賀町 字 小室	→ 羽咋郡 志賀町 小室	こもろ
羽咋郡 志賀町 字 米町	→ 羽咋郡 志賀町 米町	こんまち
羽咋郡 志賀町 字 田原	→ 羽咋郡 志賀町 田原	たわら
羽咋郡 志賀町 字 大笹	→ 羽咋郡 志賀町 大笹	おおざさ
羽咋郡 志賀町 字 牛ヶ首	→ 羽咋郡 志賀町 牛ヶ首	うしがくび
羽咋郡 志賀町 字 五里峠	→ 羽咋郡 志賀町 五里峠	ごりとおげ
羽咋郡 志賀町 字 若葉台	→ 羽咋郡 志賀町 若葉台	わかばだい
羽咋郡 志賀町 字 徳田	→ 羽咋郡 志賀町 徳田	とくだ
羽咋郡 志賀町 字 館開	→ 羽咋郡 志賀町 館開	たちひらき
羽咋郡 志賀町 字 火打谷	→ 羽咋郡 志賀町 火打谷	ひうちだに
羽咋郡 志賀町 字 矢田	→ 羽咋郡 志賀町 矢田	やた
羽咋郡 志賀町 字 印内	→ 羽咋郡 志賀町 印内	いんない
羽咋郡 志賀町 字 代田	→ 羽咋郡 志賀町 代田	しなんた
羽咋郡 志賀町 字 仏木	→ 羽咋郡 志賀町 仏木	ほとぎり
羽咋郡 志賀町 字 谷屋	→ 羽咋郡 志賀町 谷屋	たにや
羽咋郡 志賀町 字 栗山	→ 羽咋郡 志賀町 栗山	くりやま
羽咋郡 志賀町 字 矢駄	→ 羽咋郡 志賀町 矢駄	やだ
羽咋郡 志賀町 字 倉垣	→ 羽咋郡 志賀町 倉垣	くらかき
羽咋郡 志賀町 字 安津見	→ 羽咋郡 志賀町 安津見	あづみ
羽咋郡 志賀町 字 安津見新	→ 羽咋郡 志賀町 安津見新	あづみしん
羽咋郡 志賀町 字 西山	→ 羽咋郡 志賀町 西山	にしやま
羽咋郡 志賀町 字 上棚	→ 羽咋郡 志賀町 上棚	うわだな
羽咋郡 志賀町 字 二所宮	→ 羽咋郡 志賀町 二所宮	にしよのみや
羽咋郡 志賀町 字 館	→ 羽咋郡 志賀町 館	たち
羽咋郡 志賀町 字 福井	→ 羽咋郡 志賀町 福井	ふくい
羽咋郡 志賀町 字 大坂	→ 羽咋郡 志賀町 大坂	おおさか
羽咋郡 志賀町 字 穴口	→ 羽咋郡 志賀町 穴口	あなぐち
羽咋郡 志賀町 字 米浜	→ 羽咋郡 志賀町 米浜	よねはま
羽咋郡 志賀町 字 福野	→ 羽咋郡 志賀町 福野	ふくの
羽咋郡 志賀町 字 長沢	→ 羽咋郡 志賀町 長沢	ながさわ
羽咋郡 志賀町 字 大島	→ 羽咋郡 志賀町 大島	おしま
羽咋郡 志賀町 字 岩田	→ 羽咋郡 志賀町 岩田	いわた
羽咋郡 志賀町 字 坪野	→ 羽咋郡 志賀町 坪野	つぼの
羽咋郡 志賀町 字 宿女	→ 羽咋郡 志賀町 宿女	やどめ
羽咋郡 志賀町 字 甘田	→ 羽咋郡 志賀町 甘田	あまだ
羽咋郡 富来町 福浦港	→ 羽咋郡 志賀町 福浦港	ふくらこう
羽咋郡 富来町 草木	→ 羽咋郡 志賀町 草木	くさぎ
羽咋郡 富来町 荒屋	→ 羽咋郡 志賀町 荒屋	あらや
羽咋郡 富来町 谷神	→ 羽咋郡 志賀町 谷神	やちかみ
羽咋郡 富来町 三明	→ 羽咋郡 志賀町 三明	さんみょう
羽咋郡 富来町 中島	→ 羽咋郡 志賀町 中島	なかばた
羽咋郡 富来町 豊後名	→ 羽咋郡 志賀町 豊後名	ぶんごめ
羽咋郡 富来町 中山	→ 羽咋郡 志賀町 中山	なかやま
羽咋郡 富来町 日下田	→ 羽咋郡 志賀町 日下田	ひげた



旧 名 称	新 名 称	よみかた
羽咋郡 富来町 町居	→ 羽咋郡 志賀町 町居	まちい
羽咋郡 富来町 日用	→ 羽咋郡 志賀町 日用	ひよう
羽咋郡 富来町 六実	→ 羽咋郡 志賀町 六実	むつみ
羽咋郡 富来町 地頭町	→ 羽咋郡 志賀町 富来地頭町	とぎじとうまち
羽咋郡 富来町 領家町	→ 羽咋郡 志賀町 富来領家町	とぎりょうけまち
羽咋郡 富来町 高田	→ 羽咋郡 志賀町 富来高田	とぎたかた
羽咋郡 富来町 七海	→ 羽咋郡 志賀町 富来七海	とぎひつみ
羽咋郡 富来町 生神	→ 羽咋郡 志賀町 富来生神	とぎうるかみ
羽咋郡 富来町 牛下	→ 羽咋郡 志賀町 富来牛下	とぎうしおろし
羽咋郡 富来町 広地	→ 羽咋郡 志賀町 広地	ひろぢ
羽咋郡 富来町 東小室	→ 羽咋郡 志賀町 東小室	ひがしおもろ
羽咋郡 富来町 貝田	→ 羽咋郡 志賀町 貝田	かいだ
羽咋郡 富来町 大西	→ 羽咋郡 志賀町 大西	おおにし
羽咋郡 富来町 江添	→ 羽咋郡 志賀町 江添	えぞえ
羽咋郡 富来町 田中	→ 羽咋郡 志賀町 田中	たなか
羽咋郡 富来町 和田	→ 羽咋郡 志賀町 和田	わだ
羽咋郡 富来町 今田	→ 羽咋郡 志賀町 今田	いまだ
羽咋郡 富来町 八千代	→ 羽咋郡 志賀町 八千代	やちよ
羽咋郡 富来町 尊保	→ 羽咋郡 志賀町 尊保	そんぼ
羽咋郡 富来町 楚和	→ 羽咋郡 志賀町 楚和	そわ
羽咋郡 富来町 灯	→ 羽咋郡 志賀町 灯	とぼし
羽咋郡 富来町 阿川	→ 羽咋郡 志賀町 阿川	あこう
羽咋郡 富来町 入釜	→ 羽咋郡 志賀町 入釜	いりがま
羽咋郡 富来町 鵜野屋	→ 羽咋郡 志賀町 鵜野屋	うのや
羽咋郡 富来町 地保	→ 羽咋郡 志賀町 地保	じほ
羽咋郡 富来町 切留	→ 羽咋郡 志賀町 切留	きりどめ
羽咋郡 富来町 八幡	→ 羽咋郡 志賀町 八幡	やわた
羽咋郡 富来町 八幡座主	→ 羽咋郡 志賀町 八幡座主	やわたざす
羽咋郡 富来町 中泉	→ 羽咋郡 志賀町 中泉	なかいずみ
羽咋郡 富来町 里本江	→ 羽咋郡 志賀町 里本江	さとほんご
羽咋郡 富来町 給分	→ 羽咋郡 志賀町 給分	きゅうぶん
羽咋郡 富来町 中浜	→ 羽咋郡 志賀町 中浜	なかはま
羽咋郡 富来町 相神	→ 羽咋郡 志賀町 相神	あいかみ
羽咋郡 富来町 草江	→ 羽咋郡 志賀町 草江	そうご
羽咋郡 富来町 大鳥居	→ 羽咋郡 志賀町 大鳥居	おおとりい
羽咋郡 富来町 酒見	→ 羽咋郡 志賀町 酒見	さかみ
羽咋郡 富来町 大福寺	→ 羽咋郡 志賀町 大福寺	だいふくじ
羽咋郡 富来町 栢木	→ 羽咋郡 志賀町 栢木	かいのき
羽咋郡 富来町 稲敷	→ 羽咋郡 志賀町 稲敷	いなしき
羽咋郡 富来町 香能	→ 羽咋郡 志賀町 香能	かのう
羽咋郡 富来町 風戸	→ 羽咋郡 志賀町 西海風戸	さいかいふと
羽咋郡 富来町 風無	→ 羽咋郡 志賀町 西海風無	さいかいかぎなし
羽咋郡 富来町 千浦	→ 羽咋郡 志賀町 西海千ノ浦	さいかいちのうら
羽咋郡 富来町 久喜	→ 羽咋郡 志賀町 西海久喜	さいかいひさき
羽咋郡 富来町 赤崎	→ 羽咋郡 志賀町 赤崎	あかさき
羽咋郡 富来町 小窪	→ 羽咋郡 志賀町 小窪	おくぼ
羽咋郡 富来町 鹿頭	→ 羽咋郡 志賀町 鹿頭	ししず
羽咋郡 富来町 笹波	→ 羽咋郡 志賀町 笹波	ささなみ
羽咋郡 富来町 前浜	→ 羽咋郡 志賀町 前浜	まえはま
羽咋郡 富来町 深谷	→ 羽咋郡 志賀町 深谷	ふかたに

## 珠洲市で真夏のシートテハ

真夏の溪流釣り、川の中を歩きながら、川面に倒れた大きなオヒヨウをまたぐと、枝にぶら下がったものが眼に入る。枝を見回すと、白いイガイガも観察できた。ヤマメと一緒に蛹と幼虫も手に入れた日吉宏朗氏だった。

## やつぱり多いぞムラサキシジミ

六月から観察されたムラサキシジミ、幼虫は継続して観察され、八月に入っても簡単に観察することができる。

## 金沢でも採れたムラサキツバメ

蝶談会の例会への通り道でもある法島緑地で、ムラサキツバメが観察された。それをつかの間、西部緑地公園で多数の成虫が採集された。

## 今年もありもの当たり年？

ムラサキシジミにムラサキツバメと続いたアリもの、次はクロシジミかと予想していたが、ムモンアカが飛び出し

た。金沢市内では二ヶ所目、四頭目の記録。

## 野麦峠でばったり

キベリやエル、シートと野麦峠で、おいしい思いをした日吉氏、石畑氏を誘って再び訪れると、なんだか蝶影が薄い。首をひねっていると、ネットを持った細沼氏が現れた。

## 水生生物のホットスポット

西原、富沢の両氏が仕掛け人となり、珠洲でシンポジウムが開かれた。珠洲市の溜池群には、希少な水生生物が成育・生息するが、溜池の管理放棄や外来種の侵入によって危機に瀕していると報告し、今後のあり方を、地元関係者と専門家等が語り合った。

## クロコムラ熱もそろそろ下火

昨年から流行しだしたクロコムラ熱も、奥能登産があつちこつちで大量産卵した結果、ようやく下火になった。細沼、生田、嵯峨井、日吉、浅野の各氏が、うなされたらしい。

## 珠洲市中央図書館の蝶標本

中央図書館に、珠洲市飯田で集められた蝶の標本が、展示してあり、九箱に三九種が並んでいたが、残念なことにラベルが付いてなかった。

## 羽昨でも採れたムラサキツバメ

マテバジイの街路樹情報に出かけてみると、剪定された木には、幼虫がベタベタで、剪定されていない木には、ほとんど付いていなかった。

## ヨーロッパコヒオドシだった

大晦日に金沢市東山の路上で採集されたコヒオドシは、日本産では無かった。愛知県一宮市では、輸入した家具から一月に同種が見付かっているが、同じような原因だろう。

## 学研の日本産幼虫大図鑑

チヨウとトンボは、ほぼ全種を扱うなど、主要な日本産昆虫の幼虫約二千種が、オールカラーで紹介されている。A四判三三六頁で一八九〇〇円。

## 例会の記録

八月四日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

今回は、自作の超軽量ネット枠を浅地氏が紹介。トンボ採集は、常に空中戦、長竿をも振り回す必要性から生まれた超軽量枠。これまた自作の風切り軽量ネットと組み合わせれば、長竿もブンブン振り回せる。素材は、塩ビのネジと五ミリのアルミ枠で、枠は力のかかる柄の部分が太く、アミの先端に向かって徐々に細くなっている。枠の総重量は七十グラムで磯ダモの柄に取り付ける。

その他の話題は、医王山で珍虫が目白押し、鶴来で採れたムラサキツバメ、やつぱり多いムラサキシジミ、珠洲市で真夏のシートテハ、ゼフの強制採卵実施中、今から蓼科に出発、小一のスーパー虫はかせ、などなど。

参加は、浅地、竹谷、中西、松井、浅野、山岸、細沼、大脇、井村の九人。

# 会員の動き・しゃばの動き

**鉢伏山のマーキングポイント**  
 全盛だった二千年頃、スギ幼齢林に咲くヨツバヒヨドリには、アサギマダラが鈴なりになり、採っても採っても湧いてくるようだった。それから五年、スギの成長と共にヨツバヒヨドリは年々少なくなると、今年も、ヨツバヒヨドリもアサギも、ほとんど見あたらなくなってしまう。

**医王山で採れたヒメシジミ**  
 石川県では、白山周辺で観察されるが、その数はアサマシジミの1%以下の代物。そんなヒメシジミが、金沢市街から三〇分の場所で見られた。

**ムラサキツバメが飛んできた**  
 ついに石川県まで飛んできた。鶴来町の水田地帯、新興住宅地でムラサキツバメが採

集された。このムラサキ君、二日続けて庭に迷い込んだが、この庭が元昆虫館職員宅の庭だった。

**日本産コガネムシ上科図説**  
 全三巻を予定し、第一巻食糞群が出た。日本産糞虫の全てが、各種十枚以上の写真で細かく説明され、珍稀度も五段階表示されている。  
 A四判一九二頁で一八〇〇円。

**コロコロ転がるツマグロ幼虫**  
 庭の草むしりをしていると、コロコロと幼虫が転がった。背中に赤い筋があるトゲトゲの幼虫。ちよつと前までは憧れだったツマグロヒヨウモンも、今じゃ庭の害虫に成り下がってしまった。それでも、雌が飛来すると一瞬ドキリしてしまう。

**耳なし芳一ならぬ耳腫れ芳一**  
 虫は好きだが、蚊に好かれて困っている。憎き蚊は、誰も刺さずに、個人攻撃を仕掛けてくる。「こんな所に蚊が居るの」とまで言われてしまう。防虫スプレーで完全武装したつもりが、耳に付けるのを忘れたばかりに・・・。

**医王山で珍虫が目白押し**  
 ヒサマツミドリに始まった珍虫騒動、ヒメシジミ、カラスシジミ、エゾハルゼミ、コエゾゼミ、と続きヨコヤマヒゲナガカミキリも採れた。

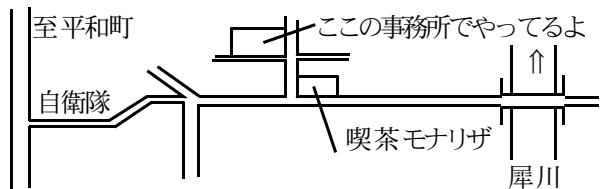
**はびこるタカサゴユリ**  
 車を走らせていると、道路脇の斜面にユリがたくさん咲いている。植えたにしては、かなり急な斜面にあり、多いところや少ないところもあって、延々と咲いている。聞けば、繁殖力が旺盛な外来種とまで、花もすぐに付くらしい。目立つ花のおかげで気づいた植物界の異変であった。

## 翔 176号

Tobu 2005年10月10日発行  
 百万石蝶談会

<http://homepage3.nifty.com/100man/>  
 金沢市大場町東871-15 松井方  
 ☎920-3121 ☎076-258-2727  
 郵便振替 00750-8-562  
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
 TEL参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (176号)

細沼 宏：富山県南砺市医王山でヒメシジミとカラスシジミを採集	… 1
松井正人：金沢市医王山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集	…… 1
松井正人：金沢市医王山蛇尾山でコエゾゼミを採集	…………… 2
松井正人：医王山の北方稜線はアサギマダラのマーキング適地	… 3
大脇 淳：ムモンアカシジミを金沢市国見犀鶴林道で採集	…………… 5
蝶談会事務局：志賀町・富来町の合併に伴う住所表示の変更	…… 6
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	……………10